

仲間とともに学び合い、読む力を高める国語科学習

～単元計画と発問に着目して～

1 設定理由

21 世紀は、「知識基盤社会」の時代であると言われており、アイディアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させている。その一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性も高まってきている。我が国の将来を担う子どもたちは、こうした変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けることが求められている。

本校の教育目標は、「心豊かで、向上心に富む児童の育成」であり、目指す姿である「やさしい子・かしこい子・たくましい子」の一つ「かしこい子（みんなで学ぶ子）」では、どんな友だちの考えも認め、その思いに共感し、友だちと自分たちの考えや思いを伝え合い・交流できるようにすることを目指している。

そのためには、付けたい力（何を教えるか）を明確にし、それを「どのように学ぶか」ということを児童の思考に沿って考えていくことが大切であり、課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習やそのための指導方法を充実させていくことが必要であると考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

単元で身に付けたい力を明確にして、有効な言語活動を設定し、児童の実態を生かして単元計画を立てたり発問の仕方を工夫したりすれば、目的意識をもって仲間とともに主体的に学び合い、読む力を高められるであろう。

3 研究内容

- (1) 理論研究（パフォーマンス課題・学び合い・発問）
- (2) 仮説の検証及び授業改善を図るためのとりくみ（授業研究・プチ授業研）
- (3) 物語文を教材とした単元の年間計画の作成
- (4) 言葉の力を高める環境作り

4 結論

- パフォーマンス課題及び評価基準を設定することにより、単元で身に付けたい力が児童も指導者も明確になり、児童は単元を通して目的をもって主体的に学習にとりくめることが明らかになった。
- 児童が交流により「読む力」を高めるためには、「児童自身が交流の目的をきちんと理解していること」「目的に沿った言葉のやりとりができるように支援していくこと」が大事な要素となる。

1 研究の全体像

理論研究部⇒本校での基礎的な考え方の構築

- ・本校でとらえる「読む力」「学び合い」
→文献研究をし、再度とらえ直す。
- ・発問について(パフォーマンス課題との関連)
- ・物語文を教材とした単元の年間指導計画作成

環境部⇒言葉の力を高める環境作成及び考察

- ・環境を提供するだけでなく、各学年の「教室での環境の工夫」を集め、検討していく。
- ・多読コーナー(並行読書)について「も実践をまとめていく。(図書リストも含む)」

研究テーマ

仲間とともに学び合い、読む力を高める国語科学習

単元計画と発問に着目して～

研究の目標

仲間とともに学び合いながら「読む力」を高める国語科学習をするためには、単元計画や発問をどう工夫していったらよいかについて、実践をとおして明らかにする。

授業研究(今年度は、「物語文」を教材にして実施)

- ・単元計画：
⇒指導事項(付けたい力)と単元を貫く言語活動のかかわりを明確にする。
⇒⇒パフォーマンス課題を設定し、児童と授業者が共有
⇒児童の実態
初発の感想を生かす・言語活動歴を明記
⇒評価基準表の作成
- ・発問：
⇒発問に対して児童がどのような反応をしたかを記録
- ・読む力の何が高まったか。

調査統計部

⇒研究の成果と課題の統計的な検証

- ・意識調査
- ・県学力検査考察
- ・意識調査等の積み上げ

授業研修＝プチ研

⇒授業力の向上をめざす。

- ・2週間程度の期間を設定する。
- ・「見て学ぶ」というスタンスで。
- ・10分でもよいので、積極的に参観する。
- ・最終週木曜日に実施後の話し合いをする。

読む力のベースとなる、ことばの力を高める必要がある。

⇒言語環境の工夫

⇒日常指導の累積(授業の中、普段の指導の中でのちょっとした工夫)

⇒特設の指導(はげみの時間の活用)

※5・6年児童には、「天声こども語」プリントに継続的にとりくませるとともに、ワンポイント指導を行う。

2 研究の実際

(1)授業実践①(第6学年)

「森林ってすばらしい！ ポスター」を作ろう

(使用教材 『森林のはたらきと健康』)

ア 単元の目標

- 教材文を読んで、納得したり共感したりした事柄を集め、コメントをつけようとする。
- 自分の意図がより伝わるように、構成や見出しを工夫したり内容を吟味したりしてポスターを作ることができる。
- 文章の内容を的確におさえて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。
- 自分の意図にそう言葉を吟味して使うことができる。

イ パフォーマンス課題と評価基準

パフォーマンス課題		「森林のはたらきと健康」を読んで、森林のすばらしさに感動した人も多かったと思います。そこで、筆者に代わって「森林のすばらしさ」を伝えるポスターを作り、5年生に紹介しましょう。 筆者の代わりに伝えるためには、筆者がどんな根拠をもとにどんなことを伝えているかをしっかりとらえなければいけません。また、読み手の心をつかむキャッチコピーもポスターの大事な要素になってきます。筆者の伝えたいことについてみんなで読み合い、それに対する自分の考えをもてるようにしましょう。そして、相手を意識し、筆者の伝えたいことにそったポスターを工夫して作っていきましょう。		
評価規準		① 納得したり共感したりした事柄から、要旨をとらえている。 ② さまざまな工夫をして、自分の意図がより伝わるポスターを書いている。		
評価基準		A	B	C
	①	筆者の伝えたいことを正しくとらえ、それに対する自分の考えを友だちの意見を参考にして修正することができる。	筆者の伝えたいことを正しくとらえ、それに対する自分の考えを書きこんだり発表したりできる。	筆者の伝えたいことを正しくとらえることができる。
	②	筆者の主張にそって、伝えたいことを明確にしている。また、友だちとの意見交換を生かして、構成を工夫してキャッチコピーや短い紹介文を用いてポスターを作成し、伝えたいことが読み手によく伝わっている。	筆者の主張にそって、伝えたいことを明確にしている。また、キャッチコピーや短い紹介文を用いてポスターを作成し、伝えたいことが読み手によく伝わっている。	キャッチコピーや短い紹介文を羅列してポスターを作成している。

ウ 単元計画について

単元の指導計画と評価計画（4時間扱い）

学習 過程	時 配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点・評価方法）
一 次	1	○学習の目標をもち、 ・ポスターを作るという前語活動で、筆者に代わって森林のよさを伝えようとする意識をもつ。 ・作成するポスター像をとらえ、ポスターにするよさを確認する。①	国 ポスターのよさと書き方について、積極的に考えようとしている。（発言・ノート）
	2	○『森林のはたらきと健康』の内容全体をつかむ。 ・筆者の伝えたいことを話し合う。 ・それぞれの段落にどんなことが書いてあるか考える。	国 筆者の主張と段落相互の関係を正しくとらえている。（ノート）
二 次	3	○筆者の論述の方法のよさや筆者の考えについて、自分の意見をもつ。 ・読者に賛同してもらったものの筆者の工夫について探る。	国 筆者の論述の方法のよさを具体的に見付けている。（ノート・発言）
	4	・筆者の伝えたいこと中から②共感したりよいと思ったりした内容に自分の考えを書き込む。	国 さまざまな観点から文章を読み、自分が感心したことや納得したことについてコメントを書いている。（書き込み）
	5 （本時）	・読んで考えたことについて、友達と意見交換をする。	国 友達の考えを肯定的に受け止めながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。（発言・ノート）
三 次	6	○筆者に代わってポスターに表し、筆者の伝えたいことを共有する。 ・伝えたいことをはっきりさせ、キャッチコピーを考える。	国 自分の伝えたい内容に合わせたキャッチコピーを考えている。（短冊）
	7	・前時の学習をもとに、ポスターに載せる内容を選び、割り付けを考える。	国 自分たちの考えを明確に表現するための版面構成を考えている。（構成カード）
	8	・自分の「森林ってすばらしい！ポスター」を作成する。 ・できあがったポスターを相互評価し、筆者が伝えたいことを再確認する。③	国 お互いのポスターのよさを具体的に挙げながら学習の成果を確認している。（発言・ふり返りカード）

① 導入では、初発の感想で「森林の健康に対するはたらき」について多くの児童が感心していることに触れた。そして、「谷田貝さん（筆者）に代わって「森林ってすばらしい！」ポスターを作ろう」という学習課題を提示した。ここでは、「谷田貝さんに代わって」という文言を入れることによって教材文の要旨をとらえる必要性が感じさせるようにした。

次に、5枚のポスターを提示し、ポスターの特徴をとらえさせた。

（ポスターサンプルは、比較的情報量の多いものにした。【写真1】）その後、学習計画を立てた。（グループ→全体）この学習計画を立てる活動の発問では「ポスターを作るにはどんなことをしていけばよいか」という発問だったため、多くのグループで「内容を決める・構成を考える・はたらきを調べる」といったポスター作りのみの活動を考えていた。【写

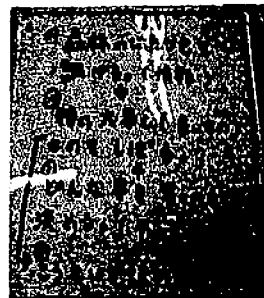
真2】そこで、「筆者に代わって「森林のすばらしさ」を伝えるポスターを作るには…」と言葉を加え、全体で学習計画を修正していった。

② 2次の「読む」活動では、筆者の工夫（論述の仕方）を読む→共感したところ・読んで考えたところ（内容）を読むという流れで当初考えたが、実際に授業をやってみると、内容を読んでから（第3・4時）「みんなを納得させることができた谷田貝さんの書き方の工夫を読もう」と課題を投げかけ、論述のしかたについて読む学習（第5時）へとつなげていった方が児童の思考に沿っていると考え、指導計画を変更した。第3時の自分の考えを書き込む活動では、教科書に直接書き込むようにさせた。

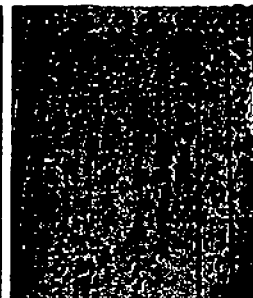
③ ポスターは、「はげみの時間」に5年生に読んでもらい、2色の付箋に「わかったこと」と「書き方でよかったところ」を書いて評価してもらった。単元終了時の自己評価の際、5年生のコメントを参考にしている児童も多かった。更に、学習の成果を確かめる活動では、「自分の考えをわかりやすく伝え



【写真1】



【写真2】



【写真3】

るコツ」について班ごとに話し合った後、全体で共有した。A3版1枚にまとめ【写真3】、教室掲示した。その後のパネルディスカッションや意見文の学習で活用した。

エ 本単元の指導の工夫について

見通しをもった主体的な学習

第1時にパフォーマンス課題と評価基準を示したことで、児童が「どんな活動を通して、どんな力を付けていくのか」を意識して学習を進めることができた。また、「筆者に代わって森林のすばらしさを伝えるポスターを作るにはどんなことをしていいたらよいのか」という

提示をして、児童とともに学習計画を作成していったことは、それぞれの学習活動の必然性を感じることができ、主体的な学習につながったと考える。2時以降の学習でも、その時間の活動がポスター作りとどう関わるのかに触れることで、ねらいをもった活動になるようにした。

1時間1目標に絞ることは、児童も迷うことなくとりくむことができ、主体性だけでなく「読む力」（ここでは、「自分の考えを明確にしながら読む」こと）を高めるのに効果的であった。

なお、評価基準の文言については次のような点から検討の必要性を感じた。

- ・児童自身が自己評価する際、補足して説明をして理解させなければならなかった。文言の検討が必要である。
- ・読むことにより関連付けて考えさせるためには、評価A・Bの「伝えたいことが読み手によく伝わっている」という部分よりも「キャッチコピーや短い紹介文を用いて」という部分を強調して書くべきであった。また、Cは「本文をそのまま引用して」という観点の方がよかった。

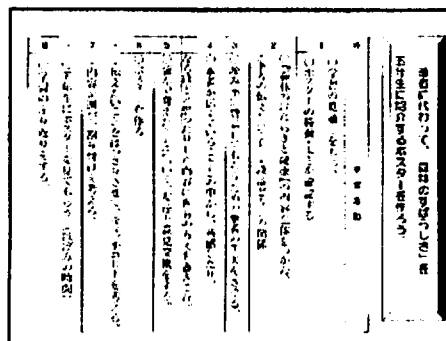
学び合い

単元前半の読む学習では、筆者の考えに対する根拠を明確にして自分の考えを交流する活動を行った。自分の考えを書かせることで、どの児童も考えをもって交流できるようにした。自分と異なる考えに出会わせ、考えを深めたり広げたりできるようにするために、学級全体での交流にした。

後半のポスター作りの学習は、3人グループで進めた。キャッチコピーや紹介する短文の検討を中心に行った。筆者の伝えたいことからずれないようにしながらも「なぜそうするのか」など、互いに聴き合う関係をつくる。友だちに問われ、再度自分に問い返しをしながら自己決定していけるようにした。児童は、友だちから助言を受け、ポスターをよりよいものにできたと振り返っていた。

ポスターができれば、交流活動を通してポスターの言葉や文の「よさ」に着目しながら、他者に共感や称賛されることで喜びや達成感を味わったり、自分と異なる考えや表現の仕方に対する受容的な態度を育てたりすることができると考えた。

さらに、学び合いの仕方そのものに対する評価を毎時行い、お互いの考えを深めたり新しいことに気付かせたりした発言やグループでの具体的な様子を紹介し合い、学び方も見に付けられるようにした。



本時の指導について

5 本時の指導 (5/8)

(1) 目標

- (1) 筆者の伝えたいことに対する自分の考えについて友達と意見交換をし、自分の考えを見直すことができる。(読後こと)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援	評価	資料
2	1 本時の学習課題をつかむ。	・学習計画表を提示し、見通しをもって学習に臨めるようにする。		
	読んで考えたことについて、友達と意見交換をしよう。	・友達と意見交換することで、新たな見方や考え方を得て、自分の考えを見直すことが目的であることを確認する。		全文
23	2 自分がサイドラインを引いたところから考えたことについて、話し合う。 (1) どこにサイドラインを引いたかを話し合う。 ・「本の扉には、空気をきれいにするそうじ機のようなはたらき」から、人間が汚した空気をきれいにしてくれる大切な存在であることを感じました。 ・私も同じところに引いただけで、旅行で森に行ったとき、気分がすっきりしたことがあると書きました。 ・「森林においては、気分をすっきりさせるはたらきがある」ということが、実験結果からわかり、納得しました。	・同じところにサイドラインを引いた児童を指名し、考えの違いに気付けるようにする。 ・児童の発言のキーワードとなる部分を板書し、考えを整理できるようにする。		
7	(2) 自分の書き込みを見直す。	○ 友達との意見交換を通して、自分の考えを見直し、書き込みを修正している。(ノート) ・友達の考えでよかったところや取り入れたいことについて考えるよう、助言する。 ・どんな内容をどのように入れるか、大まかに考えさせるようにする。		
10	3 ポスターの内容を考える。 (1) 読んで人が筆者の最後の文に共感できるようなポスターの内容を考える。 ・不から出されるおいて、国や世界をいれながら説明したい。	・読み合ったことをポスターの内容に生かすよう、助言する。		
3	4 本時の学習をふり取り、次時の確認をする。	・次時は、キャッチコピーとポスターの構成を考えることを確認させる。		

児童のふり取りより

クラス全体で話し合えて、みんなの意見と交流できてすごくよかった。○さんが言っていた「空気清浄機」っていうのが面白いから、ポスターに使おうと思った。

▲自分の書き込みを見直す前に、全体での交流で知った自分とは違う視点をもった友だちと自由に交流する場を設けることで、児童が更に思考を深めることが期待される。

活動の目的を明確にもてるようにするために、学習課題は、「読んで考えたことについて、友だちと意見交換し、自分の考えを見直そう。」に変更した。「ポスターに自分の意見を反映させるために、『自分の考え』をさらにはっきりさせる」という点を付け加え、ポスター作りとの関連の意識化を図った。

前時に書いた児童の考えは次の3つに分けられた。

- ① 古くから知られている健康に役立つ森林のはたらき
- ② 森林のにおいによる健康のはたらき
- ③ 筆者の論述の仕方

▲本時では、①②(内容を読む)に絞って交流をした。

児童の意見をもとに指名計画を立て、より多様な考えに触れられるようにした。

ここでの授業者の役割はそれぞれの児童の意見をつなげていくことであつた。例えば…

・同じ文に着目した児童を取り上げ、それに対する意見の違いに気付けるようにした。

・「○さんはなぜそう思ったと思う？」という発問をすることで、その子の読みをより深く考えられるようにした。

指名計画をもとに交流させることや上記の発問は、学級全体での交流を効率的に行い、多様な意見に触れさせる事に効果的だったと考える。

オ 明らかになったこと

- 「筆者に代わって『森林の素晴らしさ』をポスターで伝える」という言語活動は、筆者の主張とそれを裏付ける科学的な事実を主体的に読み取ろうとする態度を育てることや自分の考えを明確にしながら読む力を高めることに有効な活動である。
- 全体での交流は、いろいろな考えに触れることで自分の考えをより確かなものにしたたり深めたりすることに効果的であることがわかった。また、その際、児童にゆさぶりをかける発問をすることでより深く考えたり読んだりしようとする。全体の交流の後、個別の交流の場を設けることでより主体的な学習になる。

(2)授業実践②(第5学年)

宮沢賢治の作品の魅力をショーウィンドウでしようかいしよう

(使用教材 『雪わたり』)

ア 単元の目標

- 自分が作品の魅力として紹介しようと考えた理由を明らかにしながら、対象となる作品を読み返し、作品の特色を伝えようとしたり、友だちと進んで交流したりしようとする。
- 作品の魅力を紹介するために、登場人物の行動などについての優れた叙述に着目し、内面に描かれた心情を想像したり、表現の工夫に気付いたりしながら、読むことができる。
- 比喩や反復など、文章に現れる表現の工夫に気づき、文や文章を読むことができる。

イ パフォーマンス課題と評価基準

パフ ォ ー マ ン ス 課 題	宮沢賢治さんの作品を読んで、不思議な世界にわくわくしたり表現の面白さを感じたりした人が多かったと思います。そこで、6年生が読みたくなるように、自分が気に入った作品の魅力を「本のショーウィンドウ」で紹介しましょう。			
	作品の魅力を伝えるためには、登場人物の人物像や心情の変化をとらえたり、表現の工夫を見付けたりすることが必要となってきます。また、作品の特徴が表れたキャッチコピーも読む気にさせる大事なポイントとなります。			
	作品の魅力についてみんなで読み合い、それに対する自分の考えをもてるようにしましょう。そして、相手を意識し、自分が伝えたい作品の魅力を自分の言葉で「本のショーウィンドウ」に表していきましょう。			
評 価 規 準	①作品の魅力を紹介するために、登場人物の行動などについての優れた叙述に着目し、叙述をもとに登場人物の心情を想像したり表現の工夫に気付いたりしながら、読んでいる。 ②友だちと考えを交流させながら、作品に対する自分の考えを広げたり深めたりしている。			
評 価 基 準		A	B	C
	①	表現の工夫や登場人物の心情や場面の描写に着目しながら読み、 作品のよさに触れながら 自分の考えをまとめた。	表現の工夫や登場人物の心情や場面の描写に着目しながら 読み、自分の考えをまとめた。	作品を読んで、自分の考えをまとめた。
	②	友だちとの話し合いを生かして 、自分が書いた紹介文に書き込みをして よりよいものに書き換えたり 、作品に対する 自分の考えの変更をふり返り に具体的書いたりした。	友だちとの話し合いを生かして、自分が書いた紹介文に 書き込みをした り、作品に対する 自分の考えの変更をふり返り に書いたりした。	作品に対する自分の考えを友だちに伝えた。

ウ 単元計画について

(ア) 言語活動について

宮沢賢治の作品の中から気に入ったものの魅力を6年生に紹介するために「本のショーウィンドウ」を作る活動を設定した。この活動により、児童は作品の特徴や優れた叙述に目を向けながら作品に対する思いや考えを明確にすることができると考えたからである。「読むこと」と「書くこと」がきちんとつながるよ



【資料1：ワークシート】

う、ショーウィンドウの内容と読みの観点を関連付けるようにした。今回のショーウィンドウは、「自分にとっての魅力的な場面」「中心人物の人物像及び他の登場人物との相互関係」「表現・構成の魅力」「6年生へのおすすめの言葉」「キャッチコピー」を具体的な内容とし児童に提示した。ショーウィンドウ作りでは、ワークシート（資料1）を活用し、そのまま貼付して作品が完成するようにしていった。

（イ）単元の流れについて

4. 指導計画（12時間扱い）

単元	時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点・評価方法）
第1次	1	①『ブックトークを聞く。』『なめとこ山の熊』『どんぐりと山猫』『注文の多い料理店』 ・宮沢賢治の作品について感想を交流する。 ・パフォーマンス課題をつかむとともに、教師見本を見て、『本のショーウィンドウ』の具体的なイメージをとらえる。 ・学習計画を立てる。	① 宮沢賢治作品に関心をもち、作品を讀もうとしている。（発言・態度） ② 読みの観点に着目して読み、作品の魅力やショーウィンドウで紹介する活動計画を立てようとしている。（発言・学習計画表）
第2次	2	①『雪だるま』の内容全体をつかむ。 ・登場人物の認識し、物語の全体をつかむ。 ・「おもしろいと思ったところ」や「表現が工夫されていると感じたところ」を中心に感想を交流する。	③ 心情が大きく変化したところを中心にできごとをとらえている。（ノート）
	3	②『雪だるま』を読み、読みの観点に応じて作品の魅力伝えるショーウィンドウを作る。 ・観点にそって紹介文をワークシートに書く。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	④ 物語の紹介をするために、登場人物の行動や会話等について優れた叙述に着目し、内面に描かれた心情を想像して読んでいる。（学習カード） ⑤ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード） ⑥ 友達の考えを肯定的に受け止めながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。（発言・学習カード）
	4	③『雪だるま』を読み、読みの観点に応じて作品の魅力伝えるショーウィンドウを作る。 ・観点にそって紹介文をワークシートに書く。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	④ 物語の紹介をするために、登場人物の行動や会話等について優れた叙述に着目し、内面に描かれた心情を想像して読んでいる。（学習カード） ⑤ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード） ⑥ 友達の考えを肯定的に受け止めながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。（発言・学習カード）
	5	④『雪だるま』を読み、読みの観点に応じて作品の魅力伝えるショーウィンドウを作る。 ・観点にそって紹介文をワークシートに書く。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	④ 物語の紹介をするために、登場人物の行動や会話等について優れた叙述に着目し、内面に描かれた心情を想像して読んでいる。（学習カード） ⑤ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード） ⑥ 友達の考えを肯定的に受け止めながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。（発言・学習カード）
	6	⑤『雪だるま』を読み、読みの観点に応じて作品の魅力伝えるショーウィンドウを作る。 ・観点にそって紹介文をワークシートに書く。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	④ 物語の紹介をするために、登場人物の行動や会話等について優れた叙述に着目し、内面に描かれた心情を想像して読んでいる。（学習カード） ⑤ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード） ⑥ 友達の考えを肯定的に受け止めながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。（発言・学習カード）
	7	⑥『雪だるま』を読み、読みの観点に応じて作品の魅力伝えるショーウィンドウを作る。 ・観点にそって紹介文をワークシートに書く。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	④ 物語の紹介をするために、登場人物の行動や会話等について優れた叙述に着目し、内面に描かれた心情を想像して読んでいる。（学習カード） ⑤ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード） ⑥ 友達の考えを肯定的に受け止めながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。（発言・学習カード）
第3次	8	① 宮沢賢治作品の中から一つを選び、その魅力を伝えるショーウィンドウを作る。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	⑦ 物語の紹介をするために、登場人物の相互関係から人物像などをとらえている。（学習カード） ⑧ 優れた叙述に着目しながらその本を推薦するために、自分の考えをまとめている。（学習カード） ⑨ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード）
	9	② 宮沢賢治作品の中から一つを選び、その魅力を伝えるショーウィンドウを作る。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	⑦ 物語の紹介をするために、登場人物の相互関係から人物像などをとらえている。（学習カード） ⑧ 優れた叙述に着目しながらその本を推薦するために、自分の考えをまとめている。（学習カード） ⑨ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード）
	10	③ 宮沢賢治作品の中から一つを選び、その魅力を伝えるショーウィンドウを作る。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	⑦ 物語の紹介をするために、登場人物の相互関係から人物像などをとらえている。（学習カード） ⑧ 優れた叙述に着目しながらその本を推薦するために、自分の考えをまとめている。（学習カード） ⑨ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード）
	11	④ 宮沢賢治作品の中から一つを選び、その魅力を伝えるショーウィンドウを作る。 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化 ・一番魅力的な場面と理由 ・文章構成や表現の工夫の工夫 ・おすすめの記事やキャッチコピー	⑦ 物語の紹介をするために、登場人物の相互関係から人物像などをとらえている。（学習カード） ⑧ 優れた叙述に着目しながらその本を推薦するために、自分の考えをまとめている。（学習カード） ⑨ 比喩や反復、文章構成などの表現の工夫に気づき、文や文章を読んでいる。（学習カード）
読書タイム		① ショーウィンドウを展示し、6年生に作品についての意見や感想を聞いたりする。	
第4次	12	① 作品の魅力について交流したり、学習をふり返ったりする。 ・宮沢賢治作品の特色 ・活動や学習の価値及び身に付いた力	⑩ 自分の活動をふり返りどんな力がついたか考えたり、友達の読みと比べて宮沢賢治作品の特色を考えようとしている。（発言・ノート）

① パフォーマンス課題を提示し、学習のゴールを具体的にイメージできるようにし、目的意識をもたせた。また、『いつか、大切なところ』を取り上げた指導者作成の見本（資料2）を提示し、作る手順とショーウィンドウに表す内容項目を読みの観点としてもつことを知らせた。このことは、初めてとりくむショーウィンドウを具体的にイメージすることができ、学習に対する意欲化にもつながった。

②第2・3時は、話の内容全体をつかむことがねらいであった。登場人物の相互関係をとらえたりきつねがおり上がった場面を取り上げてその理由を考えたりする活動を行ったが、ショーウィンドウ作りとの関連付けが弱く、児童の意欲化を十分に図ることができなかった。「作品の山場はどこか。」「その前後で、変わったものは何か。」という発問をすることで、より主体的に学習にとりくみ、物語の構成や内容を理解することができたと考える。

③ 第3次は、共通教材で学んだことを生かして自分が推薦したい作品のショーウィンドウを作っていたが、読みの視点が4つあるのに対し、3時間の設定であったため、時間内に終わらず家庭学習でとりくむ児童もいた。児童が習得した力を活用しながら学習を進めていくためには、1時間1項目でとりくめる4時間扱いにするとよいと思われる。



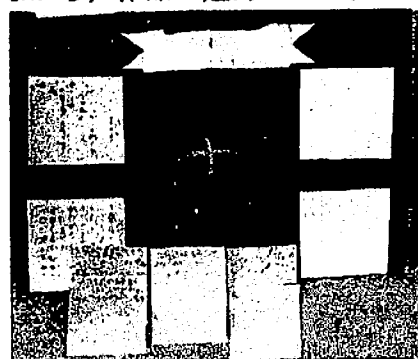
【資料2：「ショーウィンドウ」見本】

エ 学び合いについて

単元前半の共通教材を読む学習では、内容項目に沿って意見を交流させる。友だちの解釈の仕方や着目した叙述など、自分と違った考えに出会わせ、考えを深めたり広げたりできるようにすることをねらった。友だちの「きつねはやさしい。」という記述に、『やさしい』という言葉はちょっと違うと思う。だって…」と、きつねの行動等の描写に自分の考えを伝えている児童がいた。言われた児童も再度読み返し、言葉を吟味する姿が見られた。

後半の自分が推薦したい作品のショーウィンドウ作りでは、「おすすめの言葉が作品の特色をとらえた内容か、読み手をひきつける表現になっているか」について、同じ作品を選んだ児童どうして検討させた。第2次で学んだ交流の仕方を生かしながら、自分たちで相手を変えながら学び合っていた。ここでは、自分の考えを広げ深めることよりも、友だちに問われることで、再度自分に問い返したり作品を読み返したりしながら、作品の魅力がより伝わる文にしようとする姿が多く見られた。

完成したショーウィンドウを交流する活動（第11時）は、「友だちの『ショーウィンドウ』から作品の読み方を学ぼう」というめあてで行った。グループ（4人）で作品を読み合い、「いいね!」と思った点についてはピンクの付箋、「こうするともっと伝わる」と思った点については、青の付箋に書いて作品に貼るようにさせた。（資料3）青の付箋のポイントを「**こうするともっと伝わることを書こう**」と指示したため、「読み方」よりも「書き方」に目を向ける児童が多かった。活動のめあてと発問のずれを反省する。



【資料3：作品交流の付箋】

第11時の児童のふり返りより（「読み方」につながる「書き方」を記述したものを抜粋）

- ・登場人物がどんなことをいつも言っているのかを書いたらよい。
- ・登場人物を詳しく書いて、なぜその行動になったかということを書いたらいい。
- ・自分の考えだけでなく、登場人物の気持ちを入れた方がいいという意見があった。登場人物の気持ちを考えて書けるようにしたい。他の人の書いたものを読むと、同じ作品を選んでも人によって見方や考え方が違ってよかった。

オ 並行読書について

宮沢賢治の作品を学校図書館及び市の図書館から集め、たくさんの作品に触れられるようにした。読書意欲や読む力に差が見られることから、次の手立てを講じた。

（ア）代表的な作品を授業者のブックトークで紹介し、興味付けを図る。

→ 朝の読書タイム（10分間）で行った。『注文の多い料理店』『どんぐりと山猫』『度十公園林』『よだかの星』を紹介した。すでに読んでいる子に感想を聞いたりすることも行った。これまで、宮沢賢治作品に興味を示さなかった児童も、紹介された本を手にとって読むようになった。

（イ）同じ作品でも「全集」や「絵本」などタイプの違った本を複数用意し、選択できるようにする。

→ ほとんどの児童は、絵本タイプのやさしいものを選んでいった。挿絵は、ショーウィンドウにも利用する児童が多かった。同じ作品を数冊ずつ用意できたので、読みたいときに読みたい本を手にすることができた。

カ 本時の指導について

5 本時の指導 (5/12)

(1) 目標

- (1) 作品の魅力を紹介するために、登場人物の行動や会話等の叙述に着目し、内面に描かれた心情を想像して読むことができる。(読む能力)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
3	1 選んだ場面を音読する。 2 本時の学習課題をつかむ。 自分にとって「いちばん魅力的な場面」がわかる紹介文を書こう。	・学習計画表を提示し、見通しをもって学習に臨めるようにする。	
7	3 紹介文の書き方を確認する。 ・「魅力的な場面」とはどんな場面か確認する。 ・教師見本を提示し、どんな内容で書かれているかを確認する。 ・好きな場面を要約した文 ・その理由(解釈など)	・紹介文は150字程度で書くことを確認させる。 ・見本の紹介文がどんな内容構成で書かれているかを確認させながら、読みの視点が明確になるようにする。 ・叙述をもとに自分が解釈したことを書くことを押さえる。 ・推薦する場面は予め選ばせておき、同じ表現を取り上げた児童の考えの違いを検討できるようにする。	
12	4 自分が選んだ場面の紹介文を書く。 ・好きな場面の紹介文を書く ・選んだ理由を書く。	・意見交換の仕方を確認させることで、お互いにとって活動できるようにする。	
13	5 友達と見せ合い、意見交換をし、修正する。 ・意見交換の仕方を確認する。 ・3人組で見せ合い、意見交換をする。	○叙述をもとに選んだ理由を明確にしながら、紹介文を書いている。(カード) ・3で確認した内容にそって書けるような問いかけをすることで叙述に目を向けられるようにする。	
5	6 紹介文を清書する。	・友達にどんなことを言ってもらったのか問いかけ、そのことを生かして書くよう、助言する。	
5	7 本時の学習をふり振り返り、次時の確認をする。 ・魅力的な場面の見つけ方・紹介の仕方を確認する。	・本時で学んだことを再確認させることで、3次の活動に活かせるようにする。 ・次時は、表現の工夫について紹介文を書くことを確認させる。	

「魅力的」＝「人の心をひきつける」ということを確認した後、見本を見ながら書く内容を確認させた。児童からは、「大事なところを書く。」「要約する。」「読み手がどう感じたか。」というものが出てきた。
▲「解釈」という言葉に戸惑う児童もいた。→「登場人物の行動や会話等の叙述にそって理由を書こう」と、本時のポイントとなることを明確に押さえることによって、目標にせまることができたと考える。

前時の評価がBに達していなかった児童と、自己評価で「～ができなかった」などの記述があった児童を中心に指導支援するようにした。

5の活動は3人組で行う予定でいたが、やりとりを十分に行えるようにするために、「ペアトーク」の形態をとり、ローテーションしながら3人の相手と行うようにした。何について話し合うか、目的は何かを明確にしてとりくませたことで、6の活動に生かすことができた児童が多かった。



キ 児童の変容

(ア) パフォーマンス評価から

	評価	評価基準	児童の自己評価	指導者の評価
①	A	表現の工夫や登場人物の心情や場面の描写に着目しながら読み、作品のよさに触れながら自分の考えをまとめた。	9人	13人
	B	表現の工夫や登場人物の心情や場面の描写に着目しながら読み、自分の考えをまとめた。	17人	13人
	C	作品を読んで、自分の考えをまとめた。	1人	1人

②	A	友だちとの話し合いを生かして、自分が書いた紹介文に書き込みをしてよりよいものに書き換えたり、作品に対する自分の考えの変容をふり返りに具体的に書いたりした。	7人	10人
	B	友だちとの話し合いを生かして、自分が書いた紹介文に書き込みをしたり、作品に対する自分の考えの変容をふり返りに書いたりした。	20人	17人
	C	作品に対する自分の考えを友だちに伝えた。	0人	0人

単元の評価基準に基づいて児童の作品や学習カードを評価したところ、本単元で児童に身に付けさせたい力は概ね身に付いたと言える。C 評価になった児童は、作品を作ることはできたものの、表現の工夫や場面の描写に着目して読むことができていなかった。今後、読むことの学習では、個別に問いかけをしたり着目点を具体的に示したりしながら目標を達成できるようにしていきたい。

(イ) 単元の振り返りでのパフォーマンス課題にかかわる記述（抜粋）

- ・好きなところや工夫されているところに注目したり文を何回も読むということをしりましたので、読む力がついた。
- ・文章の細かい部分に注目できるようになった。
- ・登場人物や魅力的な場面を本の中から探してその本の内容がよくわかった。
- ・自分が好きな本をじっくり読めて、その中の好きな場面で納得が詳しく書けるようになった。
- ・登場人物の気持ちを考えて読めるようになった。
- ・読みながら物語の内容を理解できるようになった。
- ・重要な登場人物と主人公とのつながりを書けるようになった。
- ・登場人物の性格を読み取る力がついた。

単元の振り返りで読むことにかかわる記述をしていた児童は、4割にとどまった。読むことよりも書くことに意識が向いていた児童が多くいたためだと思われる。毎時間の振り返りを読むことに焦点化し、学習が進むにつれ、児童が読むことに関する力が高まったと自覚できるようにしていくことが今後の課題である。

(ウ) 国語に対する意識調査より（資料編 P 8）

読むことについての意識調査では、「自分の新しい考えをもつことができる」「本や新聞の内容を理解することができる」「興味をもった作者の他の作品も読んでみたいと思う。」という項目でプラスの変容が見られた。これは、「本のショーウィンドウ作り」という活動をしなが、友だちと学び合い、本を何度も読んだ成果だといえる。「目的に応じて資料を読むことができる」も大きく変化した。これは、自分が選んだ本を推薦するために何度も読み返したことの表れだと推測する。

一方で、「主人公の気持ちを考えながら読んでいる。」「主人公の気持ちが大きく変化した場面をさがすことができる。」ことについては、大きな変容は見られなかった。P7の②でも述べたが、第2・3時で物語の構成をとらえ、山場で起きた変化について考えることで、読む力をより高めること及び意識の変容が期待される。

ク 明らかになったこと

- 指導者が作った見本や活動の仕方の提示は、ねらいに沿った活動にするのに効果的である。
- 児童が交流により「読む力」を高めるためには、「児童自身が交流の目的をきちんと理解していること」「目的に沿った言葉のやりとりができるように支援していくこと」が大事な要素となる。

1 学び合いについて

「学び合い」「協働学習」「かかわり合い学習」

⇒「考えの違う者が集まり考えを出し合いながら深める」という点では、共通している。(嶋野道弘文教大)

学び合いとは？⇒「自己との対話を重ねつつ、他者と相互にかかわりながら、自分の考えや集団の考えを発展させて、共に実践に参加していくこと」(嶋野)

学び合うために、子どもたちの学習活動に「**交流**」を位置づける。

交流は…(シリーズ国語授業づくり「交流」(東洋館出版)より)

- (1) 互いに尊重することのできる人間関係の中で行う。
- (2) 複数の主体どうしで、音声または文字によって自分の考えを発信・受信し合う。
- (3) 伝え合いの中でやり取りされる対象を評価する。
 - ・その情報にはどんな意味があるか。・どういう意図で発信されているか。

【交流することの意義と役割】

○人間関係を育む。 ○思考を広げ深め高める。 ○自分のことを知る。 ○協働性を培う。

【指導要領で述べられている交流の要素をもった言語活動】

〈話すこと・聞くこと〉気持ち→かたち→見通し

第1・2学年 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

第3・4学年 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら進行にそって話し合うこと。

第5・6学年 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

〈書くこと〉感想→意見→助言

第1・2学年 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。

第3・4学年 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

第5・6学年 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

〈読むこと〉

第1・2学年 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、話し合うこと。

第3・4学年 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

第5・6学年 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

【交流の前に】

○個人の考えをもつ時間を必ずつくる。 ○自分の考えを支える根拠や理由をもたせる。

【交流をよりよく進めるための言葉】

○「例えば」「つまり」「でも」「もしも」⇒自分の考えを発信しやすくする。

○「〇〇さんと似ていて」「ちがうところは」⇒交流の論点をはっきりさせる。

【28年度の実践での交流は…】

	どんな形態でどんなことを？	こんな効果があった	指導者は何をした？
1年生	となりの友だちと ・やったことを見せ合う。 ・考えを伝え合う。	・友だちとの類似点・相違点がわかるようになった。 ・自信をもって発言できるようになった。	・やりとりがうまくできないペアに進め方のアドバイスをする。 ・よい話し合いを全体に紹介する。
	小グループ ・一人一人が作ったカードをグループで見合う。	・いろいろな考えに触れることができた。 ・友だちの考えのよさに気付くことができた。 ・グループで友だちの考えや意見を聞き合うことで、聞いた内容を全体の発表につなげることができた。	・友だちとの類似点・相違点の意見だけになってしまい、話し合いが進まないため、小グループでの活動を取り入れた。 ・話し合いでは、子どもを見守ったり、よいグループを紹介したりして、話し合いがよい方向にいくように支援した。
2年生	ペアで ・考えを伝え合う。 ・評価し合う。	・自分の考えを表出できるようになった。 ・全体の前でも自信をもって発表できた。	・グループに入り、発言の少ない子に問いかけをして全員が発言できるようにした。 ・子どもどうしの発言をつなぐ。 ・よい話し合いを全体に紹介する。
	グループで ・音読を工夫する。 ・考えを聞き合う。	・場面の様子や登場人物の心情を考えながら音読の仕方を話し合い、練習を通してグループで修正することができた。 ・一人一人の考えを出し合った後、共通した考えや意見の良い所について話し合い、まとめられた。	・場面の様子や登場人物の心情を確認してから音読の話し合いを行うようにした。どのように読むとよいのかに気付かせるために、CDの範読や指導者のいろいろな読み方を聞かせたりした。
	全体 ・発表会をする。	・友だちの発表を聞き、よい話し方や言葉の表現などを真似をし、よりよい発表を目指すことができた。	・掲示物等で、前時のよい話し方や言葉の表現を想起させることで、本時に活用できるように支援した。
3年生	全体⇒ペア ・教え合う。	・わからないことがあると、友だちに聞けるようになった。	・話し合いの進まないグループに入り、進め方をアドバイスした。 ・挙手のルール作り
	ペア ・音読を工夫する。	・心情に沿って読めるようになった。読み取る力がついてきた。	・読み方の工夫を掲示していき、次時の参考となるようにした。
	小グループで ・考えを伝え合う。 ・新聞を作る。	・作業が進まない友だちに声をかけたり、アドバイスをしたりすることができた。	

4年生	4～5人のグループで ・意見交流をする。	・付箋の使用で、自分の意見を持ち、書いて伝えようとする主体的な態度が見られてきた。→付箋に自分の意見を書くことが話し合いの安心材料になっていたが、使用しなくても話し合う力が付き、意見が速くまとまるようになった。 ・全体での発言を苦手としている友だちの意見を取り上げてリーダーが発表することで、一人一人の意見を生かすことができた。	・話すことが苦手な子は付箋に考えを書いて見せるようにさせた。 ・話し合いの柱を示したり、グループを回って内容をチェックしたりして、話し合いが目的からそれないように支援した。 ・恥ずかしいという気持ちから発表できない児童もいるため、グループで意見をまとめることで、誰がリーダーになっても発表できるようにした。
	ペア ・音読を工夫する。	・パーフェクト読みでは、音読を苦手とする児童にも読む意欲をもたせることができた。	・グループに入って話が深まるような言葉かけをする。 ・よい発言を認め、紹介する。
5年生	3～4人のグループで。 ・意見交流をする。 ・5人程度の意見を選び、その考えを聞く。	・自信をもてるようになり、全体の前でも進んで発言する子が増えてきた。 ・友だちのいろいろな考えに触れたり、自分の考えと比べて聞いたりすることで、一人一人の考えに広がりが見られた。また、考えることが苦手な児童は真似をすることで理解につながった。	
6年生	ペアで ・考えを伝え合う。	・どの子も学習課題に対して能動的に考えられる。	・ペアで話した場合は、聞いた子が全体に報告させるようにすることで、「聞く」力を高めるとともに発言の機会を多くの子に与える。 ・双方向のやりとりができるように問い返しをする。 ・話す内容を聞いて、ねらいにあった話し合いになっている所を取り上げて紹介した。
	4人グループで ・意見交流	・やりとりをしながら、意見についての検討ができる。	
	全体で ・意見交流 ・ある子がもっている困り感や課題をみんなで考え、解決する。 ・考えを深める。	・より多様な考えに触れることで自分の考えを再検討し、考えを広げたり深めたりできる。 ・児童が言った言葉をどのように、どのくらい板書するのかを考えていく。	・話す内容がずれている時は、全体で指導することでねらいとする力を高めることができる。 ・より多くの考えに触れられよう、事前に各自の考えをチェックし、指名計画を立てるとより効果がある。 ・交流の仕方のよい点を具体的に紹介する。

実践を通してみえてきたもの

ペア	・自分の意思決定ができる。 ・全員が発言する機会を保障することができる。 ・自由に話せるので、自分の思いや考えを伝え合うことができるようになる。 ・伝える楽しさを感じることができる。	【文献より】 ○おしゃべり感覚でいつでもできる。 ○交流のときのルール作りをする。 ・一人だけが話すのではなく、 二人とも話そう。 ・いいなと思ったことは、 みんなにも伝えよう。
小グループ (4人程度)	・多様な意見に触れることで、互いの感じ方の違いに気付くことができる。 ・全体よりも緊張せずに意見を出したり、発言の機会が多くもったりすることができる。 ・ねらいに合った話し合いになっているのか、指導者が全体を見てチェックをしていく。話がずれている場合は、再度ねらいを確認していく。	【文献より】 ○ペアよりも話が広がることもある。 ○交流しやすい形で行う。 ○交流するときは、 体を相手に向ける。 
全体	・より多くの意見に触れることで、考えを広げたり深めたりすることができる。 ・導入で感想を出し合う場面では、それぞれの考えの曖昧さや考えのずれに気付かせることで、課題を設定することもできる。 ・まとめでは、何ができるようになったのかについて共有することができる。	

課題は…

- 指導者それぞれが個別の取組になっており、全体で検討・共有には至っていない。1月以降に整理していく。
- 児童が「読む力」を高めるための交流するための手立て・支援を具体的に考えていく。
- どのタイミングで、どんな形態の交流を位置づけるかについては、十分検討されていない。実践を振り返りながら整理していく。

指導者の役割は…？

⇒交流をよりよく進めさせるために

- ① 「なるほど」と共感の言葉を。
⇒子どもに自信をもたせられる。
⇒子どもも、友だちの話を共感的に聞くようになる。
- ② 「どこからそう考えたの？」「どうしてそう考えたの？」と根拠や理由を明らかにしたりする問い返しの言葉を。
⇒交流が具体的な内容で進むようになる。

2 パフォーマンス課題について

- パフォーマンス課題には…

学習の目的・解決の方向性・主体的な表現の要素を入れる。

- パフォーマンス課題と出会うことで、子どもが主体的に、単元を貫く問題意識や解決の道筋をイメージすることが大切。

パフォーマンス課題

「森林のはたらきと健康」を読んで、森林のすばらしさに感動した人も多かったと思います。そこで、筆者に代わって「森林のすばらしさ」を伝えるポスターを作り、5年生に紹介しましょう。

筆者の代わりに伝えるためには、筆者がどんな根拠をもとにどんなことを伝えているかをはっきりとらえなければいけません。また、読み手の心をつかむキャッチコピーもポスターの大事な要素になります。筆者の伝えたいことについてみんなで読み合い、それに対する自分の考えをもてるようにしましょう。そして、相手を意識し、筆者の伝えたいことにそったポスターを工夫して作っていきましょう。

評価
基準

① 納得したり共感したりした事柄から、要旨をとらえている。

② さまざまな工夫をして、自分の意図がより伝わるポスターを書いている。

A

B

C

①

筆者の伝えたいことを正しくとらえ、それに対する自分の考えを友だちの意見を参考にして修正している。

筆者の伝えたいことを正しくとらえ、それに対する自分の考えを書きこんだり発表したりしている。

筆者の伝えたいことを正しくとらえている

②

筆者の主張にそって、伝えたいことを明確にしている。また、友だちとの意見交換を生かして、構成を工夫してキャッチコピーや短い紹介文を用いてポスターを作成し、伝えたいことが読み手によく伝わっている。

筆者の主張にそって、伝えたいことを明確にしている。また、キャッチコピーや短い紹介文を用いてポスターを作成し、伝えたいことが読み手によく伝わっている。

キャッチコピーや短い紹介文を羅列してポスターを作成している。

子どもたちにとっては…

- 目的を意識して学習にとりくめた。
- ゴールが見えるので、主体的にとりくめた。

指導者にとっては…

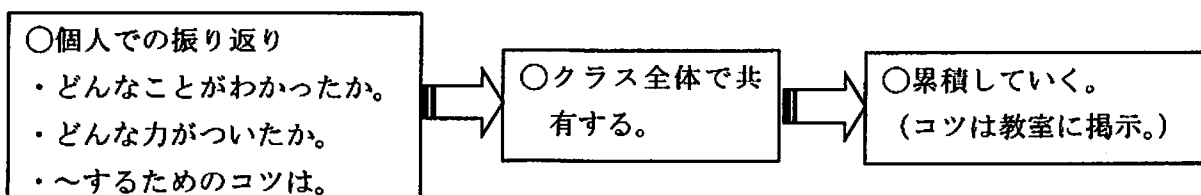
- 子どもに投げかける形で課題提示をするので、この単元をどうやって進めていくかを具体的に考えることができる。
- 学習者の立場で考えることができる。

課題・難しさは…

- A・B・Cの評価基準を作ること。(はたしてこれでよいか…)
- 子どもたちが理解できる文言の検討が必要。(補足説明をしないといけないことが多かった。)

【学習の質を高めていくために、読む力をつけるために】

- 単元の最後に振り返りを位置づける。(低学年は時間の最後に位置付ける場合も)



【授業実践①『森林ってすばらしい！ポスター』を作ろう』で児童が作成したポスター】

◆児童が考えたキャッチコピー◆

- ・森林浴をしてみよう
- ・森林に行って空気をたくさん吸いこんでみよう
- ・森林は緑の家電製品
- ・森林に行って心身の健康づくりをしませんか？
- ・感じてみよう 森林のにおい
- ・森林へ go!
- ・夏にピッタリ 森林浴
- ・森は心と体のお助けマン
- ・森林の気持ちよさって知ってる？
- ・森のマッサージ屋さんへようこそ!!

・気分がイライラするときは…

・つかれたときは…

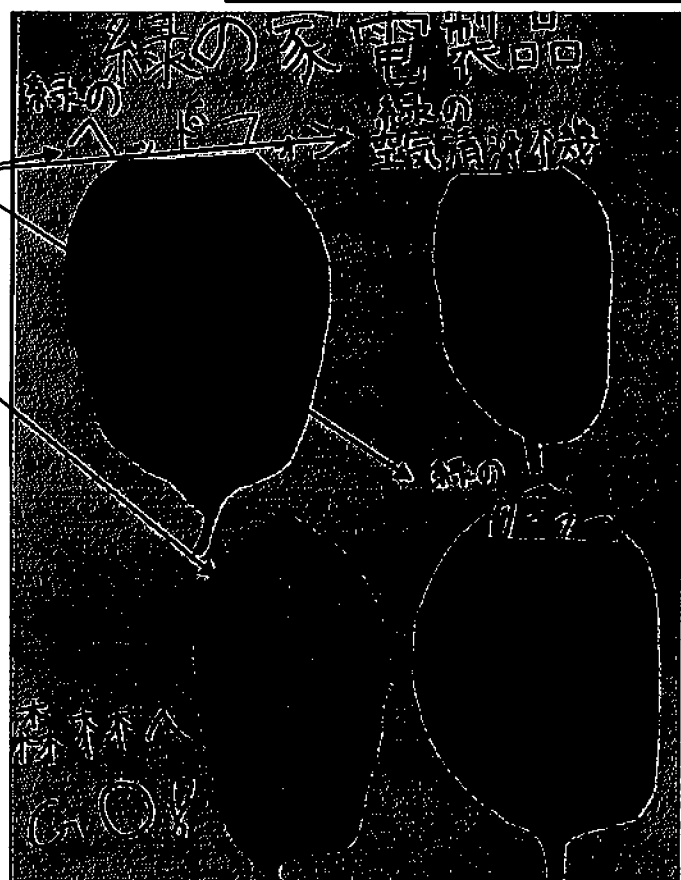
・運動する前や大会前に…

→どんな時にすすめるのかなど、自分の考えを加えて作ったポスター

体に対する森林の効果を

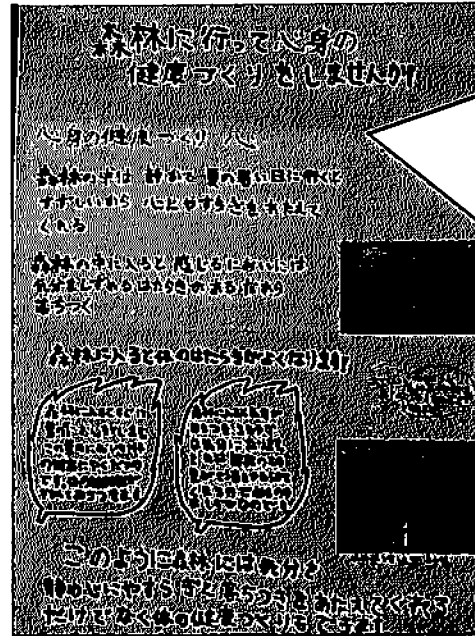
・ヘッドフォン・空気清浄機・クーラーに例えて紹介している。

・「仕事・学校・習い事で疲れたり ゆっくりしたいときは、森林に行っていぶきを感じてみませんか。」と、筆者の呼びかけに自分たちの言葉を加えて呼びかけているポスター

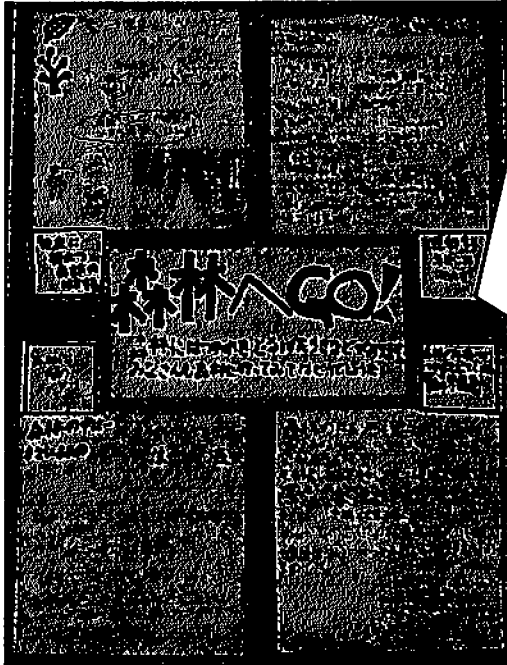




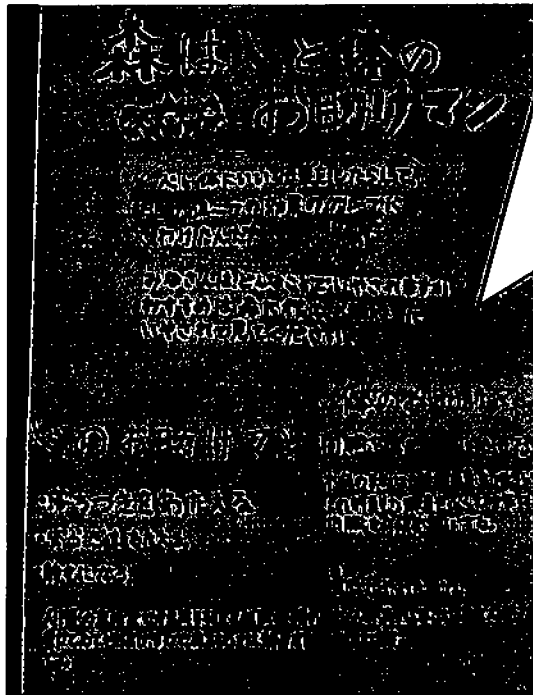
森林のにおいの効果に焦点をあてて作ったポスター



「森林の中に入ると」という言葉を文頭に用い、森林へ行くことを勧めるポスター

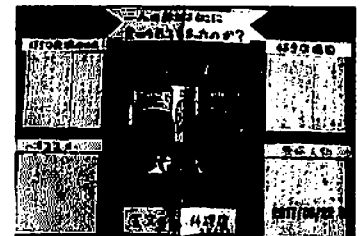


健康に対するはたらきを4つに分けて紹介したポスター



心に対する効果・体に対する効果に分けて紹介したポスター

【授業実践② 児童が作成したショーウィンドウ】



【授業実践② ショーウィンドウを読んだ6年生のコメント～どの言葉が決め手になった？～】

- ・「ここがおすすめ！」のところがとても細かくて、私も読みたくなりました。クライマックスにつながる重要な場面のことも書いていていいと思います。76
- ・いちばん魅力的な場面の「もう食べられてしまうというところで、死んだはずの犬があらわれた」というところ。
- ・「二人の紳士はねこにたべられてしまったのか？」というキャッチコピー。
- ・おすすめ！のところの「森のおくに不思議な世界があるように感じておもしろかった」という言葉。
- ・「今は『～がす』という言葉は使わないので、おもしろかった」と書いてあったから。今は使わない言葉を見付けながら読みたい。
- ・猫たちの料理店とふつうの料理店を比べていてよいと思いました。作る人が注文していて、不思議だと思った。

【授業実践② 5 学年 児童の意識の変容】

